

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく取組

水防災意識社会再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

＜ソフト対策＞ ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

＜ハード対策＞ ・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策

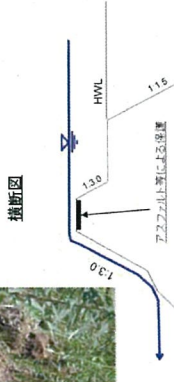
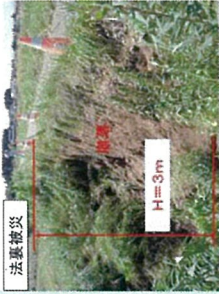
各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

＜危機管理型ハード対策＞

○越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進

＜被害軽減を図るための堤防構造の工夫（対策例）＞

天端のアスファルト等が越水による侵食から護林を保護
（鳴瀬川が糸吉田川、平成27年9月関東・東北豪雨）



＜洪水を安全に流すためのハード対策＞

○優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施



＜住民目線のソフト対策＞

○住民等の行動につながるリスク情報の周知
・立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
・住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
・不動産関連事業者への説明会の開催

○事前の行動計画作成、訓練の促進
・タイムラインの策定

○避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
・水位計やライブカメラの設置
・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供

家屋倒壊等氾濫想定区域※

※ 家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域

「斐伊川水系中海沿岸の大規模水害に関する減災対策協議会」による減災への取組

○平成28年7月20日「斐伊川水系中海沿岸の大規模水害に関する減災対策協議会」を設立

(米子市、境港市、松江市、安来市、鳥取県、島根県、松江地方気象台、出雲河川事務所)

○平成28年8月下旬 斐伊川水系中海沿岸の減災に係る取組方針を取りまとめる予定

●5年間で達成すべき目標

**斐伊川治水3点セットの早期完成に向け事業推進を図り
つつ、大規模水害に対し、中海の氾濫特性を踏まえたハ
ード・ソフト対策を推進し、「住民の防災意識の向上」、「浸水
被害の最小化」を目指す。**

- ※大規模水害 …… 想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水や高潮氾濫による被害
- ※防災意識の向上 …… 洪水のみならず高潮や内水への危機察知能力を向上させる
- ※浸水被害の最小化 …… 大規模水害による浸水被害を軽減し、早期に生活を再開させる

■上記達成に向けた3本柱の取組

1. 迫り来る危機を認識した**的確な避難行動のための取組**
2. 中海の浸水特性に応じた**効果的な水防活動及び施設運用の取組**
3. 予測しづらい**高潮への対応能力を高める取組**